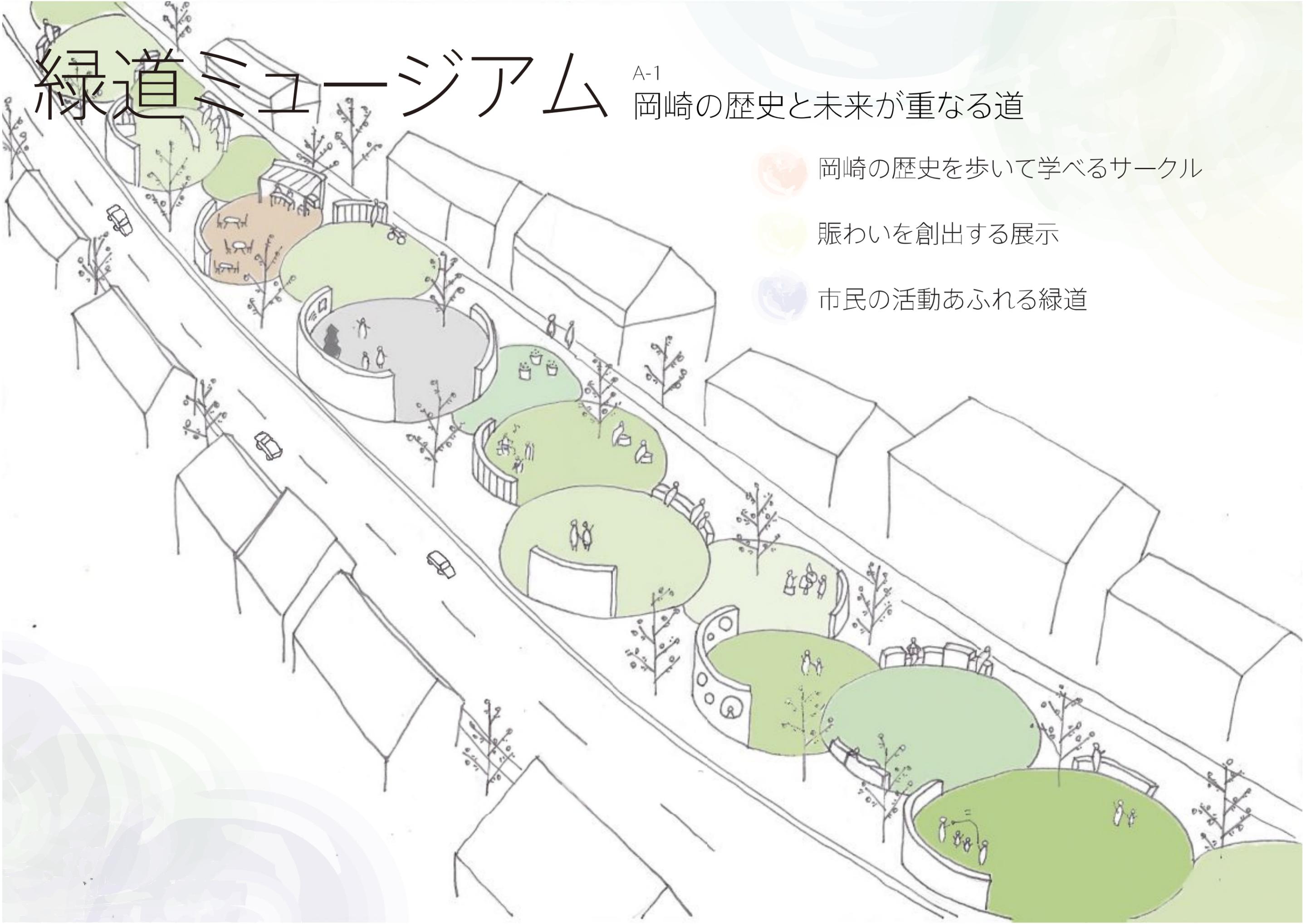


緑道ミュージアム

A-1

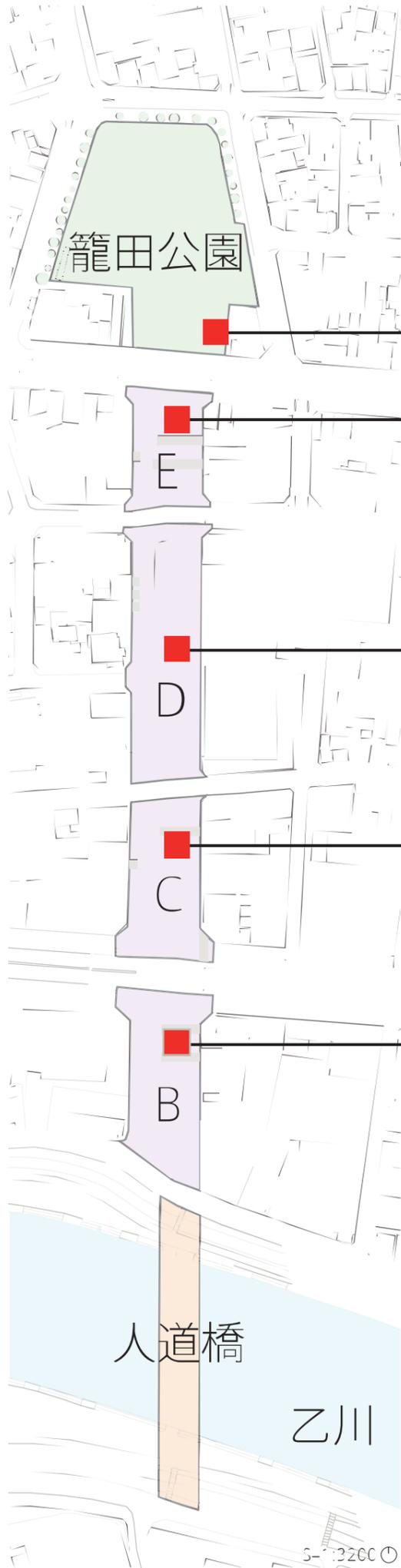
岡崎の歴史と未来が重なる道

-  岡崎の歴史を歩いて学べるサークル
-  賑わいを創出する展示
-  市民の活動あふれる緑道



全体構成

緑道の各ブロックごとに四天王像を置く



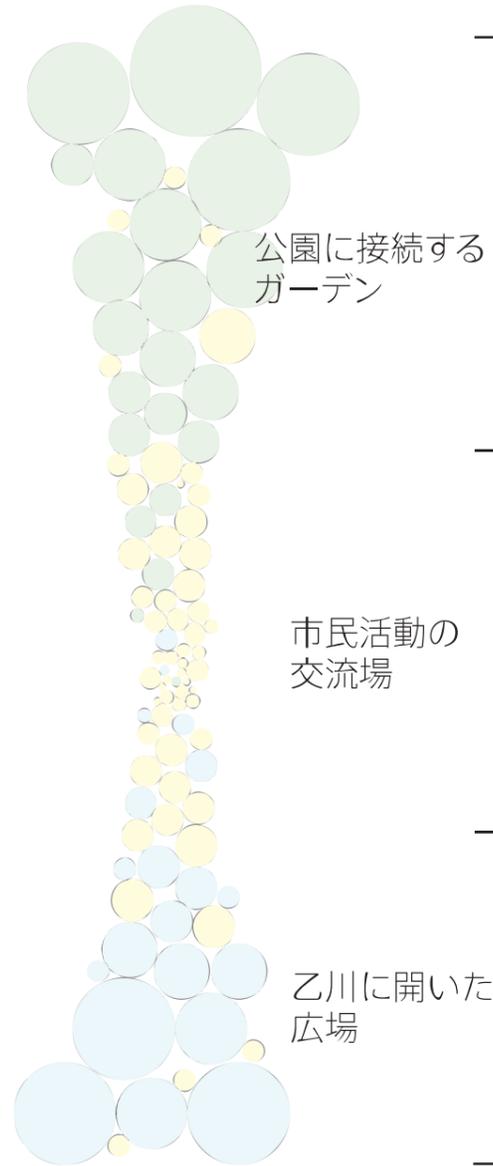
田中吉政像

井伊直政像

榊原康政像

本多忠勝像

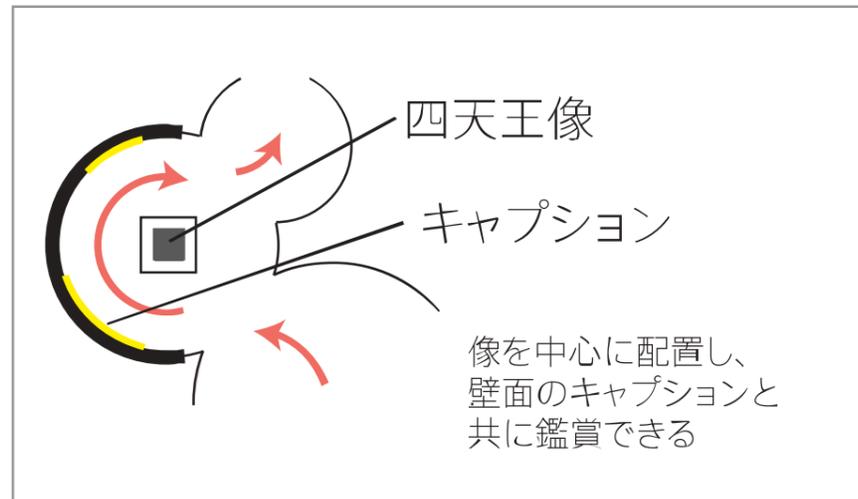
酒井忠次像



公園に接続する
ガーデン

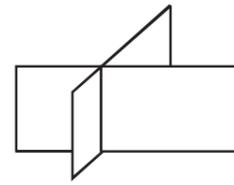
市民活動の
交流場

乙川に開いた
広場



決定プロセス

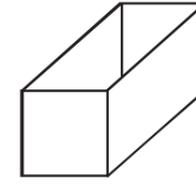
1. 十字型



課題 壁の可能性

改善 屋根を
かけることができる

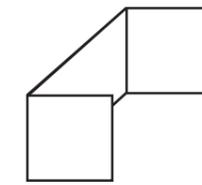
2. 箱型



閉塞感生まれる

ミュージアムとしての
機能充実

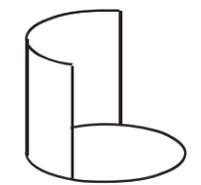
3. コの字型



視線の抜けがない

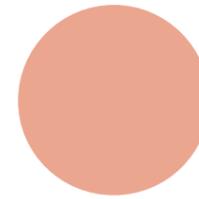
動線の確保

4. 正円型



中心性と
人の集う空間

サークル詳細



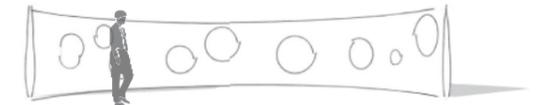
イベント・コンサート
r=6.5 137㎡
芝生



テーブル



カフェ・トイレ
r=4 50㎡
御影石



展示壁 1



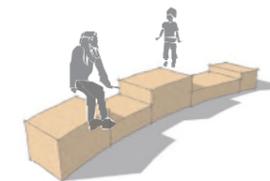
展示・休憩
r=3 28㎡
御影石



展示壁 2



インフォメーション・カフェ
r=2.8 24㎡
御影石



ベンチ



イベントブース・展示
r=2.2 15㎡
ウッドデッキ



柵



休憩・ガーデン
r=1.5 7㎡
土



展示イメージ図

人々が立ち寄れる円形カフェ



植栽計画図

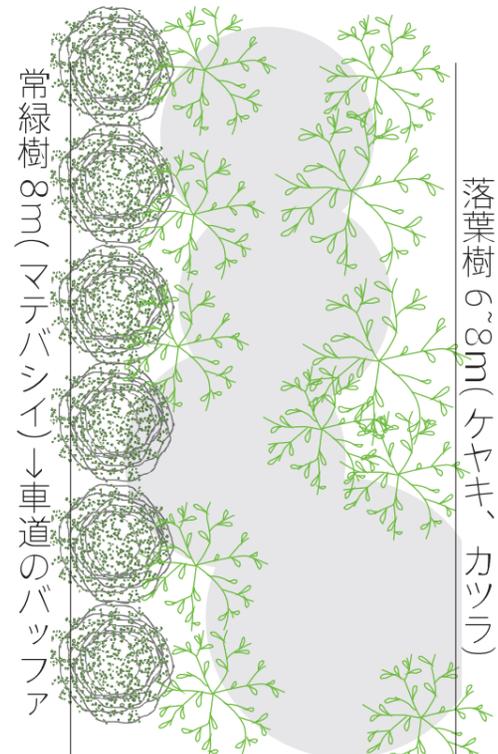


C、Eエリアには、常設カフェを設置する。道の周辺には、落葉高木を植栽し、道には常緑中木を植栽する。道の一部を、カフェに貸し出すことで売り上げの増加が見込まれると同時に、道ににぎわいを創出する。

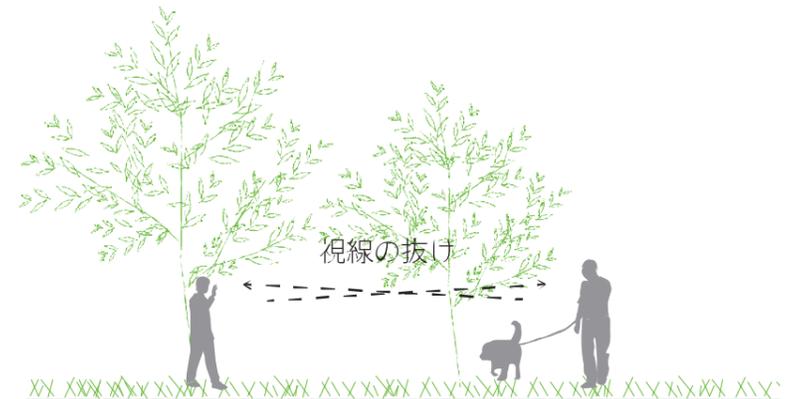


四天王像、市民菜園イメージ図

イベント時にも利用できる芝生広場



植栽計画図

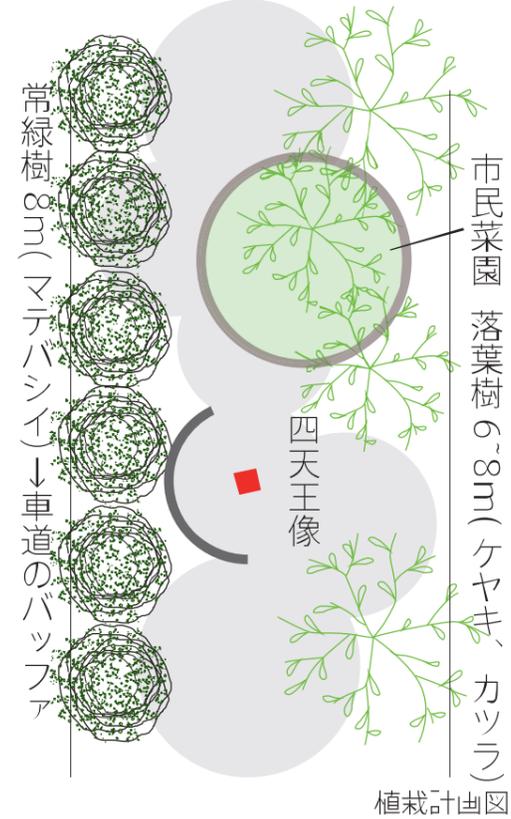


B エリアは、人道橋から見たときに中央緑道の顔となるエリアである。人きな芝生広場、視線の抜ける落葉樹によって、広々としたスペースを創出する。また、両側には車道の緩衝帯となる常緑樹を植栽する。芝生広場はイベントスペースにも利用できる。

災害時 広い芝生広場は災害時の一時避難スペースとなる。



四天王像と壁面展示

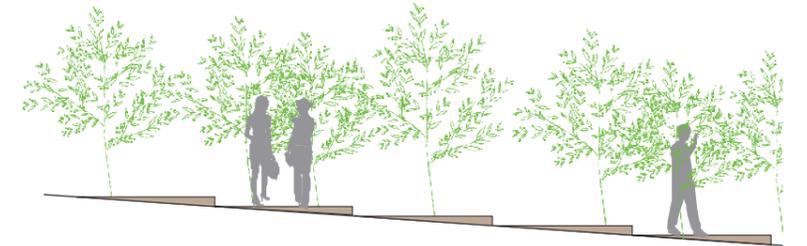


四天王像は 360 度全方向から見られることを想定しているため、円形土像を用いるように、円形の壁を配置する。壁を配置することにより、四天王像のシンボル性を強調する。壁にはベンチや歴史の展示スペースを設置する。また、E エリアには龍田公園につながる市民菜園もある。

災害時 道を幅広くとり、龍田公園への迅速な避難を想定



斜面のデッキステップ



D エリアの斜面地は、デッキステップを配置し、歩道にリズム感を出し、人々の滞留を促す。また、3~4m のモミジにより囲まれた空間を創出する。斜面地は、地下駐車場への出入り口に隣接しているため、緩衝帯として、イロハモミジと常緑低木を植栽する。